

# 日本糖尿病教育・看護学会 5カ年計画 重点目標

JADENの重点目標を検討するにあたって、社会や医療への貢献のために、糖尿病医療チームでの協働が重要であると考え、糖尿病学会の第3次対糖尿病5カ年計画」における重点と目標（1.糖尿病先端研究の結実，2.超高齢社会に向けた基盤整備，3.包括的データベースによるエビデンス構築，4.将来糖尿病対策を担う人材育成，5.国民への啓発と情報発信）に呼応する形で目標を設定しました。

1 糖尿病教育・看護研究の結実

2 超高齢社会に向けた基盤整備

3 包括的データベースに向けた糖尿病教育・看護研究の集約

4 糖尿病対策を担う人材育成と活用

5 国民への啓発と情報発信

2017年9月15日社員総会で発表されました。

# 日本糖尿病教育・看護学会 5カ年計画 重点目標

## 1 糖尿病教育・看護研究の結実

日本糖尿病教育・看護学会の設立から20年を過ぎ、糖尿病教育・看護に関する研究の数は飛躍的に増え、発展・進化し、広がりを見せています。しかし、多くの糖尿病患者や国民の期待に応えられるだけの糖尿病教育・看護の実践や成果を示している状況ではないのも事実です。これまでの研究成果を基盤にしながら、より客観性の高い糖尿病教育・看護のエビデンスを積み重ね示し、糖尿病教育・看護研究の結実に繋げる活動を展開したいと考えています。

# 日本糖尿病教育・看護学会 5カ年計画 重点目標

## 2

## 超高齢社会に向けた基盤整備

日本において高齢者の割合は今後益々増加することが予測されており、内閣府では本年6月より「高齢社会対策の基本的なあり方等に関する検討会」が始められています。それは、これまで人類が経験したことのない超高齢社会に対応できる基盤整備が求められていることを意味します。こうした社会変化を見据えて、糖尿病患者への教育・看護のあり方を検討し、基盤整備の一助を担える取り組みに繋がりたいと考えています。

# 日本糖尿病教育・看護学会 5カ年計画 重点目標

3

## 包括的データベースに向けた 糖尿病教育・看護研究の集約

IT技術の進歩の中、医療の中でもビッグデータの解析が様々な分野で活用されています。ゲノム解析や再生医療の分野もそうですが、医療の質の改善、向上を目指したビッグデータの解析も進みつつあります。日本看護協会でも労働と看護の質向上のためのデータベース（DiNQL）事業が進められています。

今後は、医療費に関する研究的側面からのエビデンス、糖尿病治療（食事・運動・薬物）の費用対効果の評価などが期待されるところです。こうした動きを見据えて、日本糖尿病教育・看護学会としての取り組みを検討していきたいと考えています。

# 日本糖尿病教育・看護学会 5カ年計画 重点目標

## 4

### 糖尿病対策を担う人材育成と活用

平成28年国民健康・栄養調査からの推計では、糖尿病が強く疑われる成人は約1000万人で前回調査（平成24年）から約50万人増加しています。平成26年の患者調査による糖尿病患者数も316万6000人で過去最高となりました。糖尿病看護認定看護師は、2017年7月現在で863人、糖尿病療養指導士は平成29年6月現在で19399人となったものの、糖尿病の発症や糖尿病重症化を予防するための糖尿病教育・看護を担う人材はまだ不足しています。これまでも日本糖尿病教育・看護学会では、学術集会の開催、研修推進委員会、ネットワーク委員会、看護研修会認定委員会などを通じて、糖尿病教育・看護を担う人材の育成と活用のための取り組みを行ってきましたが、e-learningの構築など新たな展開でさらなる推進を図っていきたいと考えています。

# 日本糖尿病教育・看護学会 5カ年計画 重点目標

## 5 国民への啓発と情報発信

糖尿病の発症予防・重症化予防のためには広く社会環境の整備も必要となります。糖尿病患者を取り巻く人々，組織，社会の糖尿病への理解，地域連携可能な医療システム構築の必要性の理解など，患者や医療者だけでなく，幅広く国民全体の理解が得られるよう，糖尿病教育・看護としての情報発信をこれまで以上に推進していきたいと考えています。